

20 世紀初頭フランス・ファッションの変容  
— 異国趣味、身体およびパターン、装飾 —

French fashion movements in the early 20<sup>th</sup> century – Exoticism, body & patterns, ornaments –

滝澤 愛\*<sup>1+</sup>, 円谷 智子\*<sup>2+</sup>, 佐藤 恭子\*<sup>3+</sup>

Ai Takizawa\*<sup>1+</sup>, Satoko Tsumuraya\*<sup>2+</sup>, Kyoko Sato\*<sup>3+</sup>

\*1 和洋女子大学 家政学群服飾造形学類 千葉市市川市国分台 2-3-1

Department of costume and art, Wayo women's University

2-3-1, Kokubundai, Ichikawa, Chiba Pref. Japan

\*2 服飾染織研究家

Independent Scholar

\*3 日本女子大学 大学院人間生活学研究科後期博士課程

Doctoral course, Graduate School of Human Life Science, Japan Women's University

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract : One of the features of French fashion at the start of the 20<sup>th</sup> century was the liberation of the female body from the restrictions imposed by the corset. This development was closely related to the contemporary fashion for exoticism and to the growing status of women in society. This joint research is concerned with middle-class women and is based on a study of the full-sized and reduced-sized patterns that appeared in magazines and an examination of changes in physique and costume configurations based on analysis of the human body, with the aim of exploring the relationship between costume and fashion at the time.

## 目的

20 世紀初頭のフランス・ファッションの特徴のひとつに、コルセットによって拘束されていた女性の身体の解放があげられる。それは当時の異国趣味の流行や、女性の社会進出との関係が深いと考えられる。本研究では、フランス中流階級女性を対象読者としたパターン(型紙)付録つき婦人雑誌を基礎資料とし、平面的・直線的・男性的と形容されるこの時期の服飾について、一般市民の服飾を考慮した服飾文化史と衣服構成学の双方からの総合的な考察を試みる。

## 方法

具体的には、身体とパターン、異国趣味、装飾の3つの観点から考察し、これらが連動して生じた服飾の変化について明らかにしていく。共同研究者滝澤は雑誌に収録された実寸大および縮約パターン、ボディエーの分析から身体と衣服構成の推移について研究する。佐藤は異国趣味ファッションの流行の実態、パリ

---

\*1) takizawa@wayo.ac.jp

の有名クチュリエやイラストレーターの代表作品の婦人雑誌掲載モデルへの波及について研究する。円谷はパターン付録つき婦人雑誌出版の史的検証、テキスタイル装飾や付属装飾品について研究する。

## 結果

最初に基本資料となる雑誌の選択と所在および概要調査を東京(文化学園図書館)とパリ(装飾美術館図書館、フォルネ図書館、フランス国立図書館)で行った。パターンの現存状況と雑誌の発行部数を考慮し、代表的なパターン付録つき婦人雑誌 2 誌、*La Mode illustrée* (1860-1937) と *La Mode pratique* (1891-1939) を基本資料に選択、研究対象期間を 1900 年頃から約 30 年間とした。最新パリモードの図像資料(写真や挿絵)に *Femina*、*Les Modes*、*Gazette du Bon ton* なども参照することにした。パターンを服飾研究資料として体系的に収集、分類、所蔵する図書館は少なく、またパターン研究も数多くはない。今回の調査により、フォルネ図書館には 1890 年代から 1960 年代の雑誌付録パターンが 3000 件以上所蔵されていることが分かった。

フランスにおける「雑誌付録パターン」は 1840 年代に遡るとされ、産業革命期以降、この種の雑誌はパリのオートクチュールを真似た流行服を家庭や馴染みの婦人服仕立屋で経済的に作りたいと望む小・中ブルジョワの主婦や若い女性に購読された。やや裕福な中ブルジョワ向けとされる *La Mode illustrée* と *La Mode pratique* は、品質と付録に応じて値段が異なる複数バージョンの出版で幅広い読者を得た。掲載モデルには著名クチュリエよりも手頃な価格のクチュリエや雑誌付きクチュール担当によるオリジナルモデルが目立つ。実寸大パターンはパターン担当で段階的サイズまたはカスタム・メイドで製作され、通信販売も行われていた。パターンには切抜き式と複写式があり、素材は紙製かモスリン製の選択ができた。全盛期 1901 年の *La Mode pratique* 年間購読(購読料 12F)では婦人服・子供服 104 品の切り抜き式と 26 枚の複写式が付録されていた。

20 世紀初頭のパリで流行した異国趣味ファッションは、現代モードにつながる服飾変革の一端を担っている。前世紀末に続く多国籍で折衷様式の流行と自由な気風のもと、ポワレの斬新なデザインやバレエ・リュスの影響に加え、上流階級を中心に流行した仮装パーティや舞台鑑賞がこのファッションに拍車をかけたことが明らかになっている。1910 年以降、第一次世界大戦前の *Gazette du Bon ton*、*Journal des dames et des modes* など上流階級向け雑誌の多くのイラストで異国趣味風ファッションを見ることができる。ディレクトワールスタイルやホブンスカートなどストレートなシルエットが流行し始め、キモノ袖など従来とは異なるカッティングや装飾モチーフ、色彩が見られた。中上流階級向け *Femina* においても同様の傾向がうかがわれた。今後は実用的志向が強い雑誌 *La Mode illustrée* と *La Mode pratique* におけるファッションの変動の扱いを考察する。

次に、*La Mode pratique* のパターン・オーダーに関係するページに度々記載されているサイズ表に注目し、検討、分析を行った。期間は 1901 年 1 月から 1928 年 1 月までに発刊された号である。この間、サイズ分類は 1901 年 11 月 2 日号、1901 年 11 月 16 日号、1901 年 12 月 28 日号のみ 1<sup>er</sup> taille~7<sup>e</sup> taille の 7 段階にサイズ展開がされているが、それ以外の号では現在と同じ 38~52 の分類で表されていた。ただ、52 の表記が有ったものは 1901 年 1 月 26 日号のみであり、基本的には 38~52 の 7 段階展開だが、号によって 38 から 6 段階や 5 段階、40 から 6 段階などまちまちのサイズ表が載せられていた。これらの表の数値から、バスト、ウエスト、ヒップの寸法の推移をグラフにしたものが表 1 である。ここから、年代によって多少の増減は見られるもののバスト、ヒップの寸法は基本的に横ばいであるのに対し、ウエストに関しては年代が追うごとに増加傾向にあった。調査期間のウエスト寸法の最大値と最小値の差は大きいもので 18 センチもあり、

女性の腰部形状が劇的に変化していたことがこのサイズ表からも伺える。更に表 2 はバスト、ヒップに対するウエストの割合を表したグラフである。1901 年ではバストに対するウエストの割合が約 60%、ヒップに対するそれが約 58%であったのに対し、1928 年には前者が 70%後半、後者が 70%前半まで割合が上がっていた。ここからも時代が進むにつれてバスト、ヒップに対するウエストの割合が増大し、女性の体型がウエストを中心に大きく変化することが判った。今後はそれらのサイズ表を基に作成されていた雑誌掲載モデルのパターンの検討、分析をしていきたい。

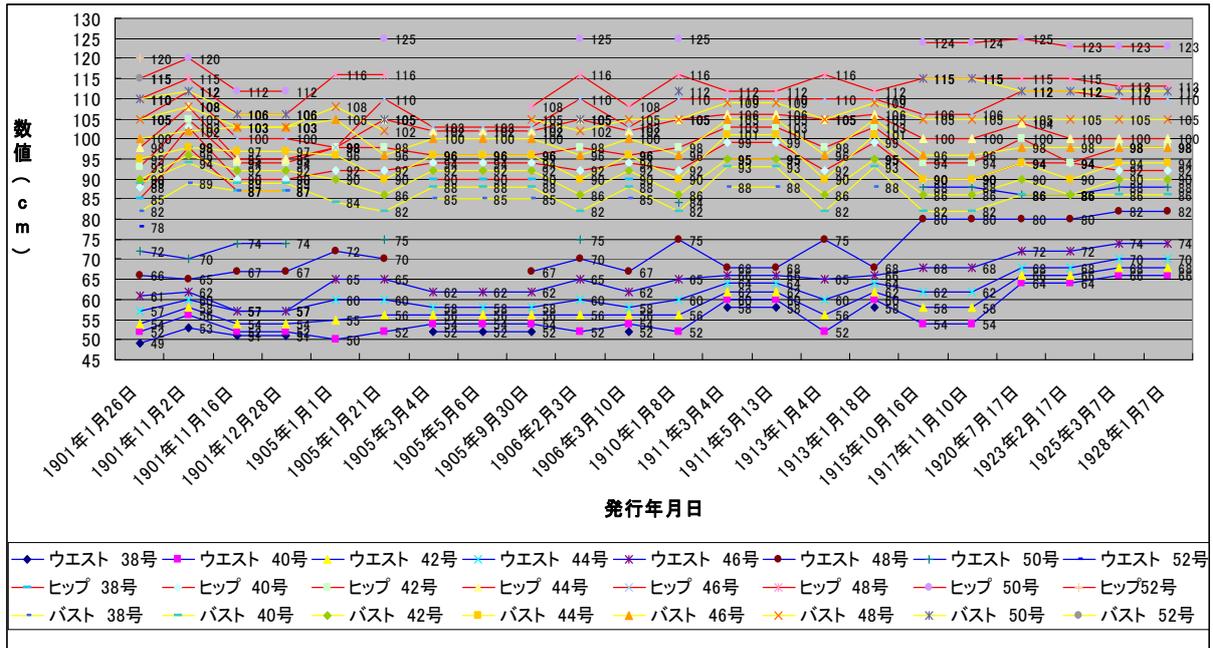


表 1 サイズ表中のバスト・ウエスト・ヒップ寸法の推移

Table 1 Transition of the bust waist hips size in a size table

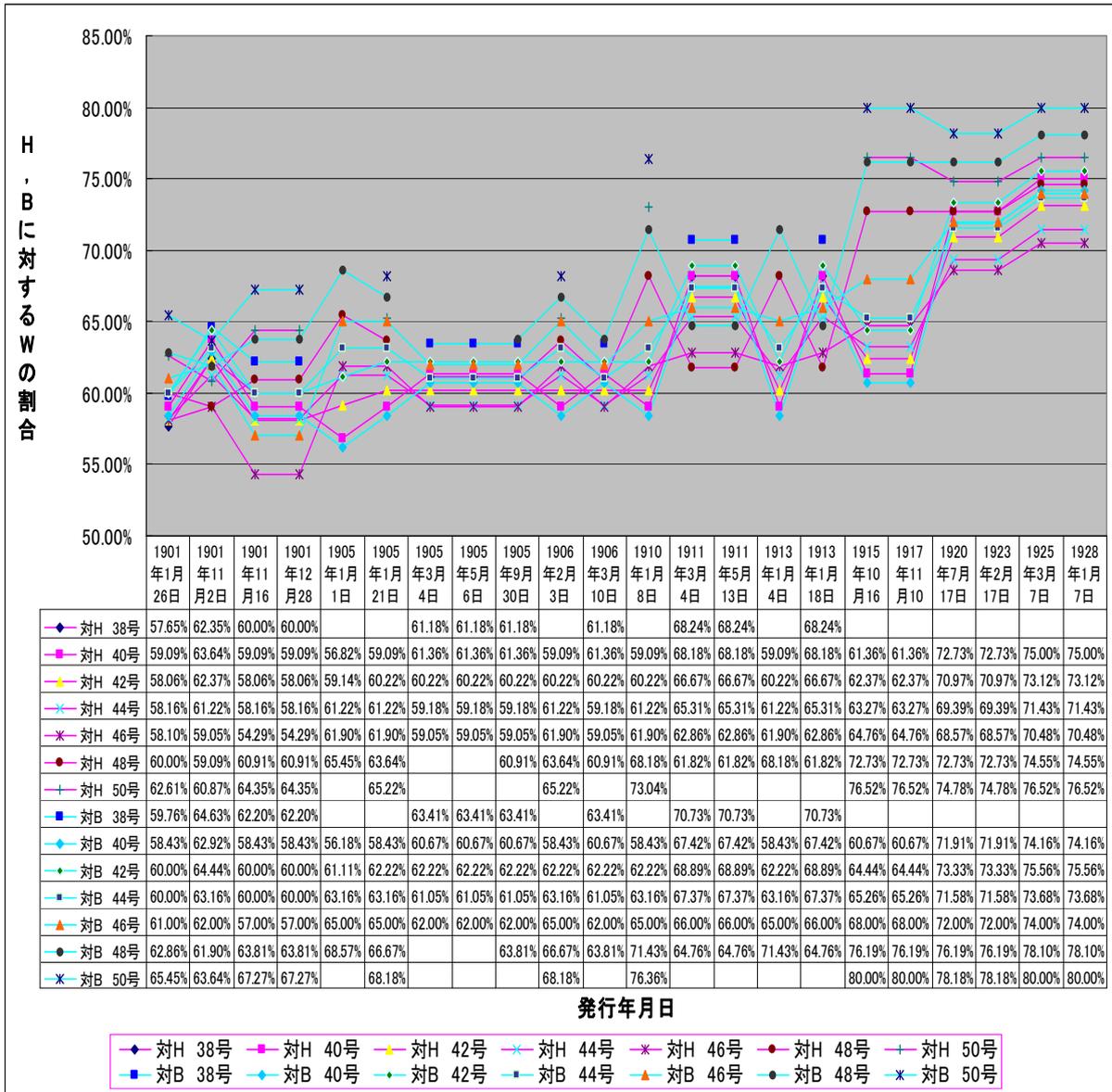


表2 ヒップ、バストに対するウエストの割合の推移

Table 2 Transition of the rate of the waist to hips and a bust

今後の展望

基本資料を基に、服飾デザイン(形状と装飾)と体型の相互関係について、研究対象期間を第一次世界大戦を境に数期間に区分し、具体的な服種(チュニック、スカート、コルサージュ、マントなど)ごとの変遷を検討していく。フランス中流階級におけるパリ・オートクチュールの受容について引き続き考察する。パリにて実物パターンの調査にあたり、衣服構成学的分析と服飾デザイン史的考察を行う。以上の考察についてまずは、平成24年度夏、第25回国際服飾学術会議にてポスターセッションを行う予定である。